

のし袋の書き方について

社殿でご祈願をお受けになる方は、のし袋にご祈願料を入れて受付にてお申込下さい。1件5千円以上、7千円、1万円など金額に応じております。(お渡しするものが変わります)

出張祭の場合も同様に、のし袋に御祈禱料を入れて下さい。出張のお祓いは1件1万円(市内)から申し受けております。

書き方は、水引の上部に「初穂料」「玉串料」「祈禱料」「祈願料」など、どれでも結構です。下部にはご祈願を受けられる方もしくは、世帯主や保護者のお名前をご記入下さい。

※のし袋にお金を入れるのは、現金での買い物などと違って、結婚式でお祝いをのし袋に入れるのと同様に、神様にお願いと感謝を伝えるための気持ちを“包む”という形に表したものです。

願い事が成就したり、感謝の気持ちを表すためにお酒などを神前に奉納する場合、のし紙に「御神酒」と書かれる方もいらっしゃいますが、神様から頂くのが“御神酒”ですので、その意味合いからも「奉献」もしくは「献酒」と書くのが宜しいでしょう。



のし紙の書き方

